

門未加
第 625
卷 3

假名字例卷二

自良至天

良

乾坤

らうり

廊下

訓ホウ
ドリ

らんたう

印塔

異名土
饅頭

らうらう

牢籠

獄屋ヲ云附らうりや牢者ハ獄
者ヲ云然ニ俗竹籠舎トカクハ非ナリ

氣形

らし

老子

名冊周時之道者嘗言為柱下史有書
行于世曰老子經又曰青牛書

らういん

浪人

未仕也俗牢人トカクハ非也牢人ト
カクハ殊ニ誤

らうらう

老翁

附らう
ひり老

即從

附らう
ぞう等

服器

らうい

朗詠

書ノ名四条大納言公任御之
編又詩歌ヲ謡ゾースル云

假名

ろうそく 蠟燭
思ミヲ
ろうのぢく 螺鈿軸
らうりやう 糧糧 又ノ料
トモ

雑事 らうせき 狼籍

らうがうりやう 濫敷 又乱ノ共源氏夕顔卷ニラ
ウラウラ大詔トアリ
来迎 佛者
之詞

武人ハ无ノ變也

武

乾坤 ひろひのち向岳 武藏名所新勅ニヒコシ
ひろひのちのまされハ

ひまつぎ 驛 附ひまつぎ路
又ひまつぎ びじろ 兔原 攝列郡名
ノ一澤有

ひまじりばね 馬場殿 拾芥注ニ八省西天子宴會所
謂之馬場殿トアリ

乳衫 ひじり 祖母 孫 常ニ上略ニテ
トモ

ひじり 夢窓國師 康永四年點龜山殿之跡而作嵯
峨天龍寺源尊氏卿歸依僧也

ひま 馬 附めひま牝馬又ひまを牧又ひまを
國人順倭有日本紀ニ馬子

ひじり 貉 びじり 當腹 後妻ノ
子ヲ云

生植 ひじりえ 梅枝 又催馬樂ノ謠物古今集
物ノ名ニあるウメシカハラ
メト云

ひじり 埋木 びじり 荊 又棘

服器 ひじり 鞅 順倭ニ當曾毛詩註ニ鞅
古訓ヒコシイキ相通

ひじり 無明異

雜事

じく

迎

遣共
通ス

ひふ

向

迎向ハ往来ノ
差別也假名

ひふふ
うむひ
トモ

奪

ひま

美 又旨

ひふ

報

又醜

ひむら

烏羽玉

夜ノ枕詞

ひまれつき

生得

うまれし
ウムト云時

ムトハ
不云

ひさう

夢想

一連
歌

ひれあ

群居

又ハハ
ひれあ

ひすほれ

結

又樹俗
作結非

ひるさ

松 又悖又
怔忡

宇

乾坤

うーか

潮

ハ朝又汐ハ夕抱朴子云天河与地河海水相傳擊
水相盪激涌而成此說不宜可尋性理大全

うどま

泫水

又洄

うすひ

碓氷

上野
郡名

うわ

宇和

伊豫郡名
鰯ノ名所

うづま

太秦

所ノ名推古十一年
秦川勝建蜂崎寺ヲ

うぐの

越前

うりふ

瓜生山

山城名
所北白

川邊世俗
谷ト云ク

うら

宇治

山城名所
附ノ川

又ハ橋姫又伊勢ニモアリ西行カ
爰も又古来ハミトヨメリ

氣形

うぐい

鶯

礼記月令倉庚コレウグヒストキコユ一説ニヒリ
カニテハ鶯ノ音云不知何是又黃鳥ト云ハ和人專鶯ノ異

名トス然氏中華ヨリ來ル所ノ黃鳥ノ繪本朝ノ
ウクヒストハ各別也管鳥ノ別名黃鸝ト云又春鳥
子ト云未見出所又金衣公子ト云ハ黃鳥ノ
異名ナリ管鳥ノ字俗作管鳥非ナリ

尉繚子 戦国時人見梁惠王説兵法有書名
尉繚子武經七書之其一也

鬘髮 後漢書ノ注ニ鬘髮又童子氏附ノ名也馬
鬘松又書言故事五墳墓類馬鬘髮封ノ註
若弁者上狹如方此則俟而易就故俗謂之馬鬘髮
封馬鬘宗鬘髮之上其肉薄封之形似之也ハニクテ
カニニ似タル墳ノ上云
ヲ種名ヲ云墓ニ云

後女 附ラヌ
後夫

魚 伊勢物語ニ云
上ノ名ニイハレ

蝦蛆 日本紀ニ
沸虫流ト

守瓜 瓜ノ
虫

生植 瓜 又瓜俗ニありトカク古書ニナレ然氏ウフハ相通
若何瓜ト云時ハフリトモカクヘキカ

苗香 樹 附ラヌ植
又栽又種

表敷 上帶

襜衣 短衣
ナリ

團扇 方扇
トモ

虚舟 杜子美
句虚

筍 取魚器野
俗ケト云

舟トアルハツホ
フ子ニアラス

四

雜事 うらづき 閏月 潤又濕

うけふ 肯又諾 うらふい 美

うへん 上又一表アラハスト訓ス 時二字ノ義同

うたみ 疑 うらぢみ 猶豫うたみ 産又生

うつよ 打度万葉ニウツヨメ うじ 産又誕

うづた 堆又崔 うらみ 俯うらみ

うれへ 愁又患 うらひて 移又写遷ニ字共 二同訓ツカヒ所

ソレニヨル可味又人ノヲト只カルラ
うらちと云ハ妻ノ字ナリ

うねく 初々布 うるら 麗又及善月訓 也用所ニヨル

うら 氏又姓附ウラカク氏袖ウラカク事ニ左傳隱公八年曰因 生ニ以ヲ賜姓胙之土而命之氏カレハ氏ト姓ハカハル之猶

左傳杜氏註及史記高祖
本紀之索隱ヲ考ヘン

うらわ 杪若 うけへ 呪咀

うらん 背語俗尊ト うえ 釧又鏝又ウエ

うぶや 産育附ぶぎ うらみ 失亡月 訓

うぐ 訃言声ソセウラウラハ氏倭書多ハタヘニ以ヲモテト 類又一詔ノ字用ル人ニアリ 詔声

セツ訓亦ミ
コトナリナリ

うらまひ

古 又著六古
亀ニトシ

うらまひ

窺 又伺
又候

うらまふ

鑿 田ヲ一シウラ
トモニ訓相通

うらまふ

雲林院ハ姓

うけが

虚 虚トモ又冲字
うつけり

うやまふ

敬 又恭

うけまらる

うぐひ

漱 鴉飼ノ字
訓可トス

お 爲

乾坤 **おんやう 陰陽**

わづき

韓 神前ノ井ガ
キニアラズ

井戸カキシ字彙ニ井垣也ト註ス附おげた
井柵又おつ井筒又つめい韓井筒

おまじ

因幡國

おざハ

膽澤

陸奥郡
名此郡

内ニまゝのゴンドヤアリ
志波姫神社神名帳ニ見タリ

おみの

卯南野

万葉ニ播ノ郡名郡内ニ
整アリ名所ナリ

おみやま

猪名山

攝津
名所

おてはまら 井出玉水

山城
名所

附めてのおろ
大臣

おれのおんや 井於神社

攝津
鳴下

郡ニアリ
神名帳ニ

おしづさき 猪鳴崎

おぶさ

異吹

又伊吹庄也足軒云ハ美濃近江兩國ノ名所
又神名帳ニ意布伎ハ江列栗本郡伊富岐濃

列不破郡ノ名所方角ニ濃列ノオヲラセタリ別テ見
ル時ハ濃列ハ江列ハおし又下野國ニモアリ膽吹トカク

おせま

堰順條

おまり

田舎俗作舎附

らひし渡
又一徘徊正

おろし正

圍爐裏

氣形おれこ

豕又豚

おの志附の志頭

猪たつの起

おりり

守宮又廬蟪正蛇蟻正カク三名本艸及丹鉛録ニ出タリ又守宮ト斗ハ法華ニモ附一の志

おのふ

猪たつの起

おのふ

胃腑

おざり

腎

おんことう

音呼鳥

おざり

膝行

生植おんごさ

蘭筵正織
作灯正

おのこづら

牛膝

服器おんろう

印籠

おのこりらの玄見餅

十月初亥

おんい

位牌

郡忌際集二十月亥日食餅除方病云今俗ニ玄措
ト云雑書等ニアルヲ見テナルヘニ源氏物語ニぬの
このゆらわ
口傳アリ

おんこ

韻會字書

おんい

月廿五日定又寸法有他説今不記之佛家為亡者
借用之名然無寸法隨貧福作小大ナリ

おんい

圍碁

棋同異名博奕
正手談トモ

おんい

印金

押ハクノ類又トキキト
讀時ハ所ノ名

推事おんい

持行

又おてト云時以字ヲ書易師ヲ以衆正ス
字書左右也トアリ伊勢物語ニあくた川と
よほをわていさけれんと
トアリ以行トモカクナリ

トアリ以行トモカクナリ

おろき

居又作屋坐日訓又すニアリ

おそたてまつる奉持

おろい

位階

おそむ

委趣意ハ附おろい細

おせい

威勢附儀師僧位

おんぢうら

印地打因ハ五月五日

日威諱京ノ西陳ニアリ

おとら

諱左傳曰生ニ忌死ニ曰然日本

近來誤テ字ヲト云

おんえん

因縁

おんぶおんぶ

負數

おんえん

圍遶一ハかゝる

おろろろ

癰瘡ようそう

おれま

猪股人姓

の

乾坤のちき

暴風

野分トモ又のちき

のらふら

野路篠原

江列名所鏡山筆

のあひ

野際

野又作埜

氣形のうじん

農人

附一ハ業

のうみ

膿耳

生植のうえ

蘓

服器のうれん

暖簾

垂席ニ附シキ

のうんび

慰斗鮑

又ハ鮑ハめノ所ニ委アリ又うらあしハ云

雜事のうふ

呪咀

のうま

曰又命又宣

のどく

延 又木のくさく
えいー枝

のどいて のどく

硯 窺見
ナリ

のう

能 古猿樂(東山)
殿時ヨリト云

のぶ

拭 又揮合ぬす
云モ相通

のさきつひ 荷前使

いざさ氏十二月陵(奉幣使)年中
行事ニ天神祭後立春前トアリ

のうけ

能化 天台及真言ノ
僧談林住持云

於

乾坤 虚空 宇宙
トモ

おほう

溟渤 大海
ナリ

沖 又澳

おほら

大路 日本紀御地
氏所ニヨリ可用

尾張國

エト多
日本武征東夷而還於尾張所帶之劍在
熱思ト明神是此劍本自大蛇之尾張出

也此叙留此
国故曰

おほやまと 大和 ニニ社ノ
内其一也

おろ

下風 山ノ時
ハセナリ

おほとこ 大隅國

おぶすま

男衾 武藏
郡名

おほわさ 邑樂 上野郡名ノ杜名所又同訓ニ大
荒木杜ハ山城ノ京ト鞍馬ノ向ナリ

おほち 邑智 石見郡名附
美爾幡郡

おほし 生浦 伊勢名所又
麻生浦トモ

おほそめり 老曾杜 近江名所鏡ノ宿異ナリ又古訓ニ
老ヲおイトモアリ不穩乎

おほひがし 思河 筑前
名所 おほくみ 息川野邊 古
今

意こころなりけり
川カハのはらららのの
おきつたまやま沖津嶋山近江名所

奥海陸奥名所
おひぢやろ老尾社下総匝瑳郡神

御前沖撰津名所
おのへ
尾上高砂ノイ一等之上字

鳥獸ノ木又
山の木
おのらやま 大内山山城

テ所奥小嶋續後撰鎌倉右大臣官根路を我こ
れハおもひのうみやトイヘル伊豆國へ又沖小嶋千
載康頼まらまぐの沖此小嶋に我ありと
トヨメル薩國之硫黄嶋トモ云

大堰川又大井川在東路ノ大井川名所ニアラス
歌ニアルハ山城國ノ大井川之此川上六清瀧
川戸難瀬一 大井一 桂一 淀川
皆一流ナリ淀ハ大トモ云

正親町附海きこし
タノリ一司

大江山丹波名所
おろしきつる監物局六位侍任之

面足尊天神七代ノ内
土徳神ナリ

人王大皇氏又王
ノ字ナリ訓 おかん又御一
トモ

祖父又王父トカリモ同訓
平人ニ王父氏云

親とやこれ時
ハをナリ おとこ 男とのこの時
ハをナリ

稚おさのの
トモ おきまびと 古老遊仙窟
又日本紀

老宿附老人おとろひ
ひとトモおひうとトモ

表三

に海たり

人民

日本紀ニヒトグサ

おさめ

專

日本紀專領又長女トモ皆

老女ノ義ニ

おきれ

翁

叟又日訓

にんざりし

御曹司

おとびと

侍従

又侍兒又侍者ト

又一字ニ出タリ

おゆき

狼

又犵狁トモ古書ニ有難用

に海り

麋

おれん

童男

に海り

妾

遊仙窟ニヲシテト訓ス声セウ

おしやう

和尚

に海り

妾

古書院法皇トアリイフカシ位ヨリ下居テハ何モ可然ナルニ尚シル人ニ尋ヘシ

に海り

大兄王

おたけ

大塔官

後醍醐院第四

皇子兵部卿護良親王是之元弘一統之初暫々任征夷大將軍事詳見于神皇正統記太平記等紹運録為第一六皇子

に海り

太政大臣

おとがね

頤

又頤

生植 おろち茶

おん

大臣

かきトモ附

に海り

澤瀉

おん

荑花

又蕙芝ト俗ニ尾花

にぎ

荻

一聲一上風古今物名荻野都嶋ト云々トアリ今ノ例ニナラス

黎蘆

又老母草

に海り

菜菔

訓母大根

おこ

於期

本朝式ニ

にくて

晚稻

ト云々トアリ

おん

白頭公

是ヲ菊ノ

異名トス本州ノ
ノハ別草ニ

服器 ねさ

箴

おけ

桶

小ト云時
ハナリ

たいけ

綾 冠具野俗
六トリト云

おもつ

鞆頭

順倭ニ馬
絡頭ニ

ねほまき

御酒 又白體
月訓

おひ

帯

又紳

おぐ

大鋸 杉用
之

おかゆ

弩

ねんたじ

御弓

万葉ニ又多羅枝最初多羅樹
枝ヲ以テ作弓故ニ云

ねんん

御博士

漢王劍天下欲乱時者倒卧
石吉山之間故云一傳來

ねんごめ

救 又救

おほあ

燈明

順倭ニ

おし
常ニト訓ス

筵

俗作筵史記席日本紀及源氏物語
アリ御寢所ニ又御席トカキテモ

おひ

笛

又笈荷擔スル物ナハホイト云
ハヒトカクケレハおヒニガフ故ニ

おひらり

鞞 又鞞太
刀具ニ

おひび

袷

衣前
襟ニ

おか

條 鷹ニ用之
順倭ニ有

おひづ

網

おがぎ

大船

九大ヲ船ト云小ヲ舟ト
云と云フ時舟勿論ニ

おぐら

欄干

おほまのうた大直比歌

神樂ノ曲
古今ニモ有

おもろく

以為

おもへ

為謂

附以為
おもろくニ

おへら
くトモ

下へオロストキハ
降字下字

おとたり

惜持

おのよ

説又おかりく雄抜日本紀
アリ又おひた守一 起

おん

おん

御

おんやけ

公

君下訓ス
久倫

おほげな

無大氣

おいすぶ

老過

附おはさ
がし一 饒

おほいざり

大前張

神楽

おひ

多

附おひ
夥

又おいらく一 來俗ニ一 苦愚察ニ老おひにタヘニ初ハ生オフ
相通ニ終オフ老オト相通ス生老ハ初終ノ心ナリ

おとろく

敬馬敷

倭字ツキ又恐懼氏源氏女顔ニ
おとろく

おほろ

朧

おさく

長々

附里
舟一 田

帯カ一 又優ノ字
日本紀ニ

おひ

大

一 中臣一 神氏
氏氏一 又一 炊

寮一
宿直

おひ

生長

又生前
又小大トモ

おほれさび

閑

常シツカト訓ス行平ノ哥
おほれさび

おほいたつ

生立

おもしろ

趣

おほい

覆

おつ

落

又墮又
零又隕

おほい

起臥

又おさわかれ一 別あつ
おほい

おふ

負

擔日おひ但たまき
ト云時ハセナリ

おかせ

仰

又めニ
出

おしむ

惜

又恪

おまけ

覺

おかえ
トモ

おる

折

たき
時ハセ

おもね

阿

此ルイ射用心得
アリ他準レ之

おころ

發

又起

おも

阿

諂ノ義
ナリ

おりたつ

居立

田子

おも

面

附おもひケリ影又良形又化ノ字又白佳燦
一替又田一水一庭一外一等

おん

納

又治

おらぶら

零落

おん

御坐

坐作座
非座

おらどく

同

又作

おん

御寸

御坐

坐作座
非座

おんんん

慮已

おん

拜

又禮

おらぬて

下居

又坐居
ト云

おん

御遊

平人ニ
不云

おらつる

無覺束

無臆
ハ非

おん

想像

おら

重

何を
ト云

おん

可笑

おん

惟以

又意者
トモ

おん

無面目

無面ト
斗カク

おら

下榮

蟬織延ノ時ハ
ト云カク龍田ノ
山ハおも

十四

十四

おうご

擁護

つゝハヤミ
ト訓ス

通ス声
アツ

おさだ

他田

人ノ姓又
長田氏

おほら

路

人ノ姓

おさくら

大佛

人ノ姓

概又大旨
又一底

おくり

癩病

えやこ氏
又左傳ニ

おうま

無奥

おうハ訓
こオクニ

おほら

大辟

人ノ姓

おほらだ

道田

人ノ姓

おほら

息長

人ノ姓

おほら

大都

又凡附お
ほらハ大

おほら

大連

昔右大臣ノ
ヲ云ニナリ

く久

乾坤

くえんが九眼屋

くもね

雲井

附くもの
木ノ水尾

又くもね
くもね

くもね

光陰

晝夜
之義

くさうせん

黄泉

浮圖ハ地獄ト云常ニ地中ヲ
サスルノカクハ非ナリ

くげぢ

匿路

ワキ道ニ又竇路ト多
コレハ又ケアナク時カクヘシ

くわぢ

久米路橋

大和
名所

くらわやま

位山

飛彈名所
又山城一系

ヨリ北通ニ惣帝王ノ御座所ヲラ井山ト云ト一説ニ
拾遺ノ賀ニ々ぬ山モヨシマテ決けり故なれん

くご

國栖

又作國標茅野在名平家物語ニ吉野ノクズモ不
参トアルヲ彼所ノ名物ナレハ葛ト心得者ニアリ

吉野ノ一ノ者元日例
ニテ大内ニ一ルヲ云

辰

五

氣形 くさくさのうぐす 皇太后宮 三宮ノ其一又くさくさのうぐすノ皇太后宮ハ其ニ中宮ハ其ニナリ

くさくさ 東山以來將軍家号トス くさくさ 水雞 順倭ニ

くさくさ 鯨鯢 日本ニスグヱラ文字不知古來誤テアノ字ヲ書

くさくさ 觀音 六ノ一有十手ノ一正ノ一馬頭ノ一十面ノ一准服ノ如意輪ノ一是ヲ配六道ト云

くさくさ 鵠 順倭 白鳥 くらみん 蛇

くさくさ 公卿 順倭ニ雷ノ名トス くさくさ 冠者君 源氏ニ

くさくさ 冠ノ時ヲ云 くさくさ 烏芋

生植 くさくさのうぐす 懐 又興葉五年ノ内

くさくさ 葛 くさくさ 草萌

くさくさ 桑 俗作桑

服器 くさくさ 欽 說文 鏤 くさくさ 杙 作杙非ノ夕 冬ト訓ス又

くさくさ 株 移又 くさくさ 薰衣香 源氏ニ有

くさくさ 紅 又緋又緋但色 濃上薄ニヨル くさくさ 熊膽

くさくさ 鬮 トモ訓ス くさくさ 轡 又順倭ニ韁 鞋ト云

くさくさ 鞍 肥 附ケたウチ脱鞍 又クサクサ排鞍

くさくさ

くづ 屑物餘

くもを 組

くさのらぬ 餓頰

くやうせん 公羊傳書色

門人公羊名高作春秋傳是合左氏傳穀梁傳鄒氏傳夾氏傳謂春秋之五傳鄒夾二氏之傳今亡

雜事 くぬて 悔

くもて 噬

くふ 加

くふう 工夫

くましく 委又精

くらわい 口惜又朽

くろく 苦

くづろれ 窮屈又類

くらしさふ 口説

くろく 企

くはう 口入

くどろ 挑又鱗

くどく 蹇其足ヲ

くひて 食又食

くど 公事

くひ志 剋又喫

くろく 荒涼アレタルコト又過言トシ去

くづろ 崩又類 くるふ 狂

や也

乾坤 やよひ 彌生三月之 やえん 峯路

やまめうひ 山陝兩山間之古今誹ニ山の

やういよま 八幡山 作幡曰山城 やういよま 八鹽岡 山城名所新

勅これら丹のやういよまのさうのやういよまとトアリ又八塩山ハ大和ノ初瀬近所ナリ是モ多ク名所八入山ト云

やういよま 山井 近江名所又陸奥 やういよま 陽明門 大内十二

やういよま 門共 一ナリ

氣形 やういよま 楊雄 又古ノ射入養由ニモ同カク漢王莽カ大夫準易テ大玄經ヲ作ル擬論語而作法言背可笑傳在

前漢書見 ナヒ卷ニ やういよま 楊貴妃 唐玄宗ノ寵女

やういよま 養子 猶子ノ時尼カノ子ヲ云

やういよま 玄玄 禮記ニ出タリ やういよま 山鳥雄 呂初尾

やういよま 魚夫 須俊ニ

生植 やういよま 椰子 又ヤシノ やういよま 山藍 又ヤシノ

袖、 やういよま 楊梅皮

服器 やういよま 胡蓀 又蓀 やういよま 楊枝 佛書ノ六物ニ出

又えハ所ニ出 やういよま 羊羹美 やういよま 刃 俗作

やういよま 楊弓 やういよま 柳管 硯短冊鞆冠或

經卷ヲ載臺 以柳作之也

雜事 やういよま 八日 やういよま 漸 ヤトモ 稍

まうりく 盲目
まうけぬき 儲君 天子ノ太子

まじい 離孫 秋名甥子ノ附
まじくハ既孫

まらうと 魴魚 俗作
字鯉 まらうと 客人 又賓
トモ

生植 ますかほく 十寸穂薄

服器 まんえんま 萬葉集 二十卷アリ
公所撰ナリ

まぐん 馬把 農具 まうまい 賄賂 一字ニ
テモ

まぎふ 繽紛 一字ニ
テモ まいひ 纏 徒黨ヲ企
シカクニスルト まいびき 真帆人 ウルシ
キ

雜事 まどひ 轉 カクター等ノ臥リ又まどひノ轉
寢古今

まらふは 無數奇 又まらふノカト
云時ハ相ノ字

まらふ 參 日本紀ニ
交又雜 まうす 申 又言此字
モ哥ニヨル

古今陸奥哥ニエスル
らウとラセマキの

まうろく 設 まりつ 廻

まどまひ 禁呪 史記厭當日本紀ニ禁厭又素問ニ移精變
氣論トアレハ以前ヒサレキト見ヘタリ

まよひ 迷 又惑 まいひ 舞

まらうて 詣 又參 まづき 貧

まとお

圓居

ま

前

作弄同

まこえ

目見

ま

先

け 計

乾坤

けぬぬ 飼飯海

越前名所けひのやりの氣北社
書來仲哀帝之靈ナリ

氣形

げうう 堯王

火徳ナリ

嵯康

晉七賢ノ中

けんこう

兼好

少年ヨリ天台山ニ上リ學問ス父ハ吉田兼
顯兼好後宇多院北面侍之後宇多崩

御後出家俗ノ時ノ字ヲ用テ名トス
和歌所四天王トヨハル徒然草ヲ作ル

げらう

下篇

げうと

凶徒

服器

げうく 脇息

はれわをぬの 狭細布

けの

雜事

げんみ

氣 日本紀ニ
又形勢

げうらん

梟亂

則狂
乱ニ

けふ

今日

げさう

假粧

女人ノ
調色

けうゆう

興遊

上字ヲ
スルニ

けらえん

結縁

けうぐう

校合

書物ヲ
考ニ

げうく

樂欲

けんぼう

健忘

病ニ

げうく

脇痛

けつぼう

血崩

女病

げさう

恠

附同訓ニ下羽

けうとく

氣疎 河海

けうやう

孝養

けうご

澆季 赤世 義之

けうごん

教訓 附けし 誨

けうたう

澆澹 酒盃之也又疑當 又下學ニ奥道

けらめ

結目 又驗

けさうどて

懸想

けんげう

檢校 僧侶又ハ 座頭ニ有

けんぬ

權威

けん

險 又嶮

けづる

刪 又刈

けひわー

檢非違使 天長七年 置此局



乾坤

ふさうえく 扶桑國 日本ノ

ふどらん

富士山 駿河 国富

士郡萬葉ニ富慈ニ作又中国ノ諸書富ニ婦書富 兒不書不ニ不兒ニ作皆是倭人ノ音ニシタカヒテニ ルス乎ソモク倭人此等ノ 字ヲカキテ示ス乎

ふらえ

藤江 幡テ 名所

ふらんのび

古河邊 大和 名処

ふらえをさう 藤代御坂 紀伊 名所

ふのぬらう

三ヶ所 新後拾ニ大ニシテ名をそとけりぬらうとあり 又ヨメル和泉吹居浦ニ新勅ニそけりぬらうと曰

病をけりぬらうトヨミ玉フハ紀伊ノ 吹飯浦ニ又丹後ニモ吹井アリ

ふんれせき

不破關 美濃 名所

ふるまう

船岡 山城京 条ヨリ

十町 程

ゆづり

鳳至 能登 郡名

氣形 ふらぬ

夫婦

ふらう

梟 又老兔不 考之鳥

ふらう

河豚 俗フグト 云毒魚

ふゆう

蜂蟬 朝生夕 死虫之

ふら

風市 炎所 ナリ

生植 ぶたぎ

葡萄 えびらう トモ

ふらぶら

本朝蘭ノ字ヲ用 又ラント声ニ用テ

香艸ノ名トス然レハ訓ト声トニテ二種ノ艸之不穩萬葉ニハ藤袴トカケリ拾芥ノ源氏物語目錄ニモ藤袴トカケリ此花夏咲テ藤色ニ本艸綱目十四芳艸類云春芳者為春蘭色深秋芳者為秋蘭色淡開時萬室盡香與他花香又別也

ふらま

路

水ノ上ニシ山ノニガレ盤渉調ノ越殿樂ニラウキト云モ草ノ名ト謡ノ令中略シテフキト云歎冬ト醜醜トヲアヤニリタルモヤミフキト云ニ付ヲナルヘシ

ふらう

芙蓉

字彙曰芙蓉生於水者曰水芙蓉即荷華也生於木者曰木芙蓉即秋華也亦名拒霜

ふら

藤

又巢附カラ 横一短一太一長一拍一 歌一附一まふえ籥

服器 ふえ

ふらひ

節

説文竹器也トアリ 殺金ニ本来フト書テ口ニハムト云

ふらこ

藤衣 喪中衣 浅青黒色

坂州

三

ふらよきひ 儀

雜事 ふらふ

揮

振同訓ニテ
意異ニ

ふせう

不肖

不似
人ニ

ふらまひ

舉動

俗ニ振
舞

ふぢう

不自由

ふらふて

振延

附ぬひさくへ布引延
於田ぬかよりくみてき等

ふらぐら

符

又封
トモ

ふらさうは

無覆藏

ふらう

不幸

主君父母妻子等ニ死別
都テワサハニ遇ラズ

ふゆら

武勇

ぶぬ

無爲

ふらす

副寺

又一使正
使佐

ふらよきひ

呼舟

ぶさう

無雙

ぶらまらふ

佛生會

灌佛
日

龍華會ニ云高僧傳四月八日浴佛以五香水灌頂五
香本州朝音本日本ニテハ推古天皇ヨリ始ル由見于公
香為五木香也
事根源是釋迦佛於俱毘藍城而出生之時天龍
灌承ノ故事然凡四月八日ト云ハ周建子正月ヲ以テ
云今夏止建寅ノ月ニヨレハ二月八日ニ誤
來コトヒサニ可考道生八歳第三卷



乾坤 ニかり

冰

又作氷
又凍

ニよ

國府

こうら

小路

ニかり

郡

こらやま

小幡山

山城
各所

こひねさ

戀湊

伊賀
名所

こぶねり 古古井杜 伊豆名所 こぶねり 越路浦 越後名所

こうきん 後凉殿 在大内清凉殿西

こうきでん 弘徽殿 在大内 こねん 辺衛

氣形 こうし 孔子 名丘字仲尼晚周之時木聖人謚文宣王序六經

こうじ 瞽瞍 頑人之大舜之父 こうがう 弘法 空海謚嵯峨帝

こうしん 級依僧能書 博學能文章 の相入き こうぶと 高麗人 源氏

こうろぎ 蟬 又蜻蛉 こい 鯉

こうろん 業人

こさうと

妻兄氏 爾雅云婦之黨為婚兄妻弟氏 弟壻之黨為姻兄弟

ことい 特牛 頭ノ大牛ヲ云 こてふ 胡蝶

こみ 腓 附ノ筋ヲ云 こみや 切者

こさう 五臟 心肝腎肺脾 こうきう 後室 字書註室妻

こらさう 護持僧 こうなり 勾當 内侍又座頭

こめさう 兄部

生植 こえん 五葉松 こすゑ 梢 又杪氏則木末

こけん 木傳 こけんといふもの

校勘

三十五

こうぞい

紅梅

こうがく

厚朴

こぞう

牛蒡

悪實

こぞう

梧桐

服器 ころくめ

刻印

こぞう

柱

琴ノ具之琵琶ニハチウト云

こぞう

燂飯

こぞう

強飯

こぞう

古今和歌集

友則貫之躬恒忠岑等ニ勅シテ延喜五年ニ撰ル

こうぞう

公帖

帖又狀也禪僧官位ノ時公方ノ許狀也但首座以上ヨリ出尊氏卿ヨリ始ル

こうぞう

俟串

まともすくー候ハまこの目わ中ノ黒切一と云の字を字書ニ射侯之中ニトアリ俗的ノ字ヲまともと来ル不穩

こぞう

比及

こぞう

無越

閑雅トモ源氏ニ

こぞう

失意

こぞう

日本私記ニ又

今宵

又一夜

こぞう

濃

こぞう

御即位

こぞう

五更

こぞう

薨

倭訓ニワ公侯ノ死ヲ云

こぞう

戀慕

こぞう

喉痺

こぞう

口腹

口欲アルヲ

こぞう

越

こぞう

拵

又人ヲスカスヲコレラユル

ト云時

こころり 理斷同訓

こころり 心緒日本紀ニ意見

こゑはらふ 聲

こゑはらふ 庶幾又希又冀

こゑひ 乞又請

こゑひ 肥又曰訓養田畠三用之

こゑはらふ 寒又凍又返

こゑはらふ 諺玉世篇ノ註言事是訓母

こゑはらふ 剛又強

こゑはらふ 不凝不懲古今戀こり此

こゑはらふ 更衣四月朔九月九日又諺物ノ名也

こゑはらふ 極又き出

こゑはらふ

こゑはらふ



空海ノ以呂波ニ依ノ字ノ畧ノ衣ヲ書其形之ニ俗江ノ字ヲ用ハ誤ナリ江ハヨミナリ非ハ声ニ

乾坤 えんてん 炎天

えんてん 延曆寺桓武天皇

延曆年 中建立

えんてん 蝦夷嶋えり

リは凡一十嶋古ハ王城ノ東方ヲ都テ蝦夷ト云西方ヲ熊襲ト云敢テ定ル所ニ非ス後ニ定ル可見日本紀崇神景行ノ紀ヲ

えんてん 遠嶋附一方

一慮 一離

えんてん 江差陸奥郡名

えち 愛智近江郡名

えち 江口

氣形 えびす

東夷南蠻北狄西戎等或指土地也

えち 鱒又海鮓 魚トモ

えんじょう

江待従

朱雀院ノ母后ニ
つゞく女歌人ニ

えんじょう

若小用ト云今修驗宗ノ元祖ニ賀茂
役公氏文武帝之時人ナリ

えのそつ

江帥

鳥羽白河比人即匡房之在朝為納言在
為太宰帥又兼大藏卿故曰江大府卿曰
江都督又曰江帥其著述見續文粹朝野群載及
無題詩集且江次第一書至今人依之江談抄其說
詠而門人記
之全論不傳

えつらい

雀賊

小雁鳥

えぞ

鮫

又海

えんまわり

焰魔王

浮屠地国
ノ主ト云

えち

胞衣

えだ

肢

手足

えだ

穢多

屠兒ト云是俗えつト云聖德太子ノ時異
朝ヨリ屠兒ヲ招牛馬皮毛骨角ノ細エラ
ナサシム本朝神国而尤忌觸穢故屠兒不同於
火甚絶交其徒細エ之者皆長屠兒至今然

生植

えんどう

えやぶら

龍膽草

えび

氏

又他偷
草

えもぎ

蓬

又蒿

え

荏

油ヲ
トル

えご

枝

又桑又條又
えごをな

えれき

榎

作積
同

えんざ

圓座

委ワノ
字ニル

えび

腋

又胡録委
ヤ字ニル

えい

嬰女 本朝冠具後ニサカレ
糸モ之冠クヨクニシラス

えん

燕巢 又えん
脂 一脂 えん

えり

棧 日本紀ニアリ
又蘆薈 えり

えび

襟 又衿社 えん

えん

焰硝 俗塩消トカリ
ハアテ字ナリ

えん

衣被香 えん

えん

鹽梅 俗アニイト云
又酢

えん

烏帽子 えん
一帽

三十一

三十二

雜事

えんぞうぬ不得知みらぬのいんそく也六
えんぞうぬホニ

えう

窈窕 ト訓ス えんわん

延引

えや

敢 ヤト云義此類多シヤハ
ちりりーせんの月也

えや

疫 一腐瘟一本州服器部ニ鍾
殖ラエヤミシムト訓ス

えい

英雄 勝千人ヲ
ト云 えん

艶 一書又えん
らぬモ又云

えん

演説

えん

馬 語ノ助ニ又鳥ノ名
順倭ニカト訓ス

えん

閻浮身 古今短歌ニえん
えんや

三十三

三十四

えささぬ

敢不去

万葉ニ依成ニえささぬぬめりとのア
今按ニ不敢去用不得去用可省

えい

縁

声エシ又家ノエシモ
又ハリ一モ訓ス

えり

得

附之の獲田獵ノ時
鳥獸ヲウレナリ

えぶ

撰

作選同
又擇

えんろく

偃息

休息
ナリ

えり

彫

刻木
ナリ

えいらん

叡覽

一慮一聞
感皆天

えり

彫

刻木
ナリ

えん

宴

花月一内
重陽一賀一

えびく

嘔

衆一等ニ
ナリト訓ス

えこ

依怙



天

乾坤 てうてい

朝廷

モロコシテハ天子諸侯共ニ云日本ニ
天子宮ニカキル一賀一拜

てい

出羽

和銅五年始テ陸奥五郡置之或説曰天寶
元年置之上古此地貢就鳥雁之羽故曰

てうせん

朝鮮

新羅高麗百濟是ヲ三韓ト云三國共ニ韓氏
ノ国ナル故ニ三韓合テ朝鮮ト云以前久国号

トイハレ倭ハ專ニ韓ト云三韓氏ニ服日本之由倭書
往々載之殊ニ神功皇后征三韓事人皆稱之からト
ハ高麗と指りあこトハ中華を指る一秋ニりあこ
ト云古今の序ニうれいといふとあるから中華
高麗をさるといふ古今の詞書ニいふからまを
めりこいよわありりよつとくしりけりよとろハ
中華ニ日本紀ニ高麗をいふと點をさうらいの下
畧ニ云ハりりこいとうろ各別ニ朝鮮の史記

列傳五十九後漢列傳
七十五を考る

てうやう

重陽

九月九日也

てうぎ

鳥獸

ふ

蝶

てうてんせ

北殿司

東福寺僧能畫

てんげう

傳教

取澄ノ謚、桓武帝ノ歸依僧、草創延曆寺

てうぎ

趙岐

字邠卿、初名嘉、後漢人、作孟子註并三輔決録、後漢書列傳五十四載之

附てうさう趙子昂

元朝之善書、夏蓋並華、芙蓉圖、官至翰林學士

ていりやう程明道

諱顥、字伯淳、宋河南人、神宗時之明儒、大賢也、元豐八年乙丑卒、弟程伊川諱頤、字正

叔徽宗大觀元年丁亥卒、是又大儒賢人也、以兄弟同德之故、謂二程而不分、兄弟二程之學、出於周茂叔、而周子之學、則得乎千歲不傳之緒、朱子記周子之祠曰、上接洙泗千歲之統、下啓河洛百世之傳、周茂叔二程張橫渠朱文公之謂宋儒四先生再造大道、開未來學、事蹟人々識之、傳在宋史伊洛淵源錄名臣言行錄等之諸書

生植 てんきう

天雄

服器 てり

鉦子

酒器也、順倭、サキト訓ス

てうのてん

鉦

ていん

鐵炮

天文之比、渡和國

てうご

調度

俗諸道具ト云

てうりく

鳥目

錢、一ト云、形鵝

ノ腫ニ似タル故也
尤鵝眼トモ云

てうらん

挑灯

又張燈匠行灯ト挑灯トリチカハタルヲ誰モ知
ル也心ヲ付ハ多ク多シ馬ニ声ヲカクル止ト動ト

ナヘチ
ガフ

てうらん

牒状

雜事

てうりやう

重寶

てうわい

寵愛

でうすう

條數

てうごう

眺望

ていごう

手傳

てすさび

手談

てとわご

又手

兩指相
交ナリ

てふふ

云イノ字
委

てうろう

嘲哂

てうらん

調練

鍛鍊ノ
義ナリ

てくれん

者

倭文ニ多クてくれハハ
悪ニヤ古書ナシ

てうづ

手水

てらふ

銜

てうさん

逃散

てんほう

轉蓬

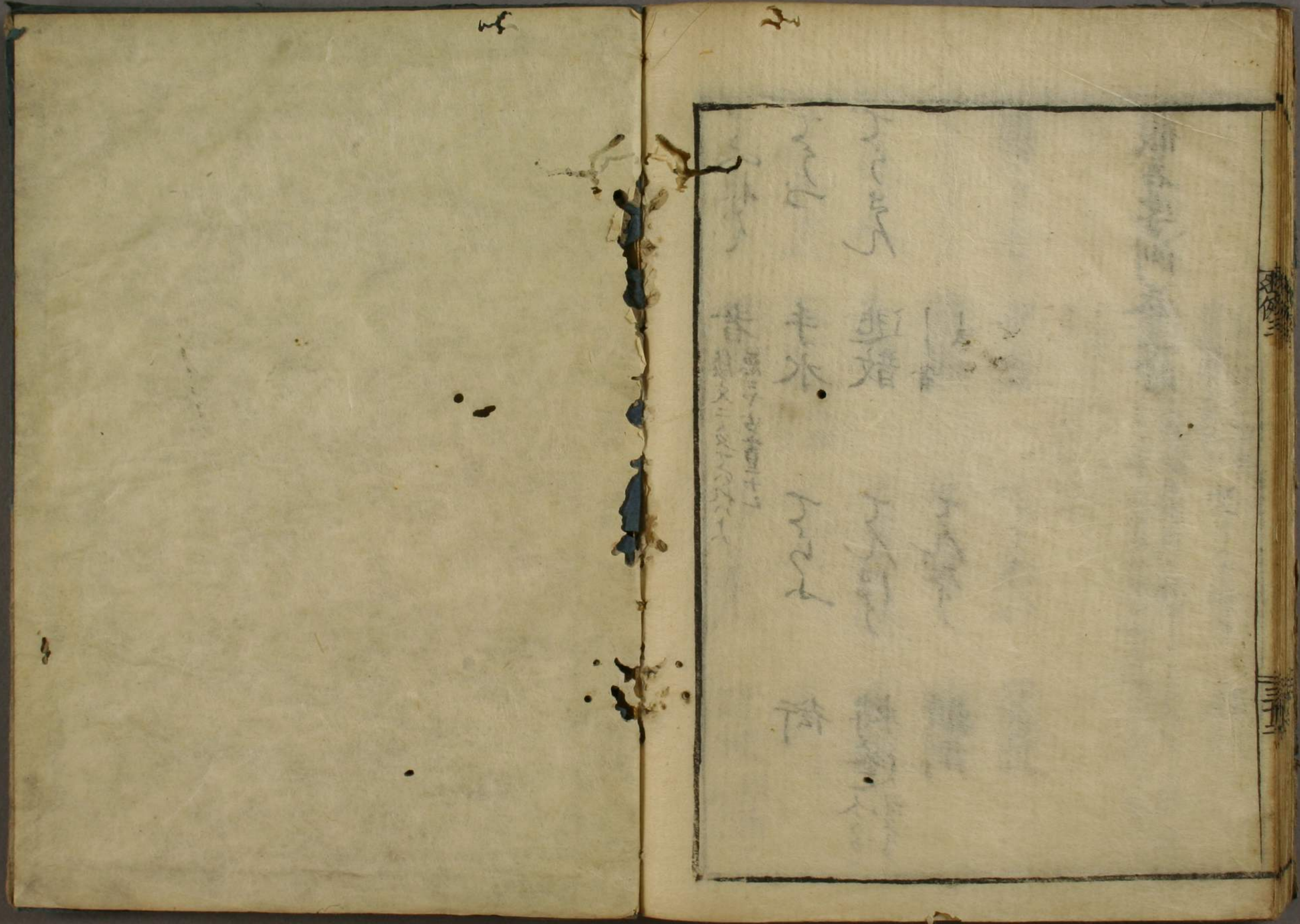
今カ
乱カ

一者
ト云

てんだう

顛倒

假名字例卷三終



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

